

七夕に思う

織姫と彦星

7月7日の七夕と言えば、織姫（おりひめ）と彦星（ひこぼし）のロマンチックな恋物語。子どもの頃に絵本を見たり、プラネタリウムで物語を聞いた記憶がある人もいるかも知れません。けれど、どんな話だったか忘れてしまった。という人もいるのではないのでしょうか。

織姫と彦星の恋物語を要約すると、

「空を支配する天帝の娘である織姫は、機織り（はたおり）が得意でわき目もふらずに織物を織っていました。天の川の東では彦星という働き者の牛飼いの青年が牛の世話をしていました。この2人はすぐに恋に落ち、天帝は2人を結婚させることに。2人はとても仲の良い夫婦になりましたが、仕事を怠けては天の川で遊んでばかりいるようになります。織姫が織物を織らなくなったので機織り機にはほこりが積もり、彦星は牛の世話をしなくなったので牛たちは弱っていきます。そんな様子を見た天帝は怒り、2人を天の川の兩岸に別れさせます。しかし、2人があまりにもひどく悲しむので、年に1度、7月7日の夜だけは会うことを許したのです。」

怠けて、働かないとひどい目に遭うと言うことですかね。

私は理科の教師なので、追加して書きます。七夕の時期に東の空に見ることがでできる“夏の大三角”を知っているでしょうか。織姫は夏の大三角のなかのここと座のベガを指し、彦星はわし座のアルタイルを指しています。この2つの星はどちらも一等星でひとときわ明るい光を放っています。もうひとつの一等星であるはくちょう座のデネブと一緒に作られる三角形を夏の大三角と言っています。天の川をはさんで、ベガとアルタイルを見ることができます。



7月の夜、東の空を見上げ、夏の大三角と天の川を探し、古の教えと、宇宙の壮大さを感じてみてはいかがでしょうか。